

神奈川大学 教職課程指導室

ボランティア通信 No.10

～松本中・栗田谷中・老松中編～

発行日:

2008年7月16日

内容:

- ・学校ボランティアで学んだこと
小川 一樹
- ・ボランティアの感想
上田 維子
- ・松本中学校でのボランティア活動
下屋敷 アンナ
- ・ボランティアを通しての感想
其田 健太郎
- ・「松本中学校と老松中学校でボランティアをして」
鈴木 和佳



学校ボランティアで学んだこと

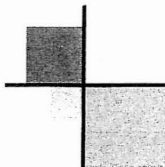
英語英文学科 小川 一樹

私は、横浜 市立松本中学校で、英語科の学習支援ボランティアをやっています。普段は、生徒の様子を見ながら、つまづいている生徒や正しく理解できていない生徒に声をかけ、アドバイスしていきます。私のアドバイスにより、次の段階に進むことができた時、また間違いを理解して正しく直すことができた時、生徒はとてもうれしそうな顔をします。私は、ボランティア活動を通して、教えるということの喜びを感じています。そして、教師になりたいという思いを強めました。ボランティア活動は、生徒と実際に触れ合うので楽しいこともありますが、大変なこともあります。初めて生徒を指名する役割を与えられた時、深く考えず早く挙手する生徒を指名したり、指名して欲しいと一生懸命アピールする生徒を指名したりしていると生徒の中から、「あの子（あのグループ）ばかり指名している。」や「手を挙げてもらえない。」という不満が出てきてしまいました。その後、担当の先生と話をする機会があり、指名する時、指名する順番やいつも挙手する生徒とあまり挙手しない生徒をしっかりと見極めるなど色々なことに配慮していると教えていただきました。実際の授業で生徒とともに過ごしてみないとわからない経験をさせていただきました。このような経験は、教育実習でとても役に立ちました。

実際の授業で行う活動を考える機会もありました。この時は、文法を復習できる活動としてチャンツ（リズムに合わせて単語や文法を覚えるもの）を考えました。この活動に一生懸命取り組んでくれる生徒もいれば、ほとんど興味を示さない生徒もありました。私には、その場で活動のやり方を考え直す力がなかったので、その時は考えた通りにやりました。今後は、活動の手順や生徒の興味をしっかりと理解し活動を考え、色々なやり方を想定しておいて生徒に合わせて柔軟に対応する力を養っていかねばいけないと実感しました。

ボランティア活動では、実際の現場に触れ、先生方から現場の話を聞くことができることもとても素晴らしい経験になります。自分が生徒だったころの視点と、学生としての今の視点、そして現場の先生方の視点など色々な視点から学校の様子や生徒の様子を見ることができるので、自分が教師になったらどのようにしていかねばいけないかを考えるよいきっかけになりました。

学校で子どもたちと触れ合いながら指導していく教師という仕事は、大変な面も多いですが、とてもやりがいのある仕事だと思います。



ボランティアの感想

経済学部 経済学科 2年 上田 維子

私は前期の約3ヵ月間松本中学校にバドミントンの部活動の補助としてボランティアに行かせていただきました。週に1から2回のペースでいかせていただきました。初めて松本中学校に行った時、松本中学校の生徒さんはとても礼儀正しくて、あいさつもしっかりでき、職員室の場所を訪ねた時も丁寧に教えてくれていい学校にこれたなと思いました。先生方もやさしく接してくれたので最初とても緊張していたのですが、緊張がほぐれ気持ち的にもかなり楽になりました。

ボランティアとして初めて松本中学校を訪れた時は、顧問の先生がまだ来ていないのに、もうすでにアップを始めていてすぐまじめにバドミントンに取り組んでいるのだなとおもいました。いざ一緒に練習に参加してみるとやはりうまくて私も全力で取り組みました。試合の練習にも参加させていただきました。私も試合前だったのでいい練習になりありがたかったです。アドバイスするとき、私の話を生徒さんが真剣に聞いてくれてアドバイスしがいがあったなとおもいました。私は普段あまりアドバイスなどをするほうではないのでとっさに良い言葉が思いつかず、焦ってしまったので、そういうとっさのことにも対応できるようにしていかなければならないなと思いました。

私はあまり注意するのが得意ではないのですが、今回松本中学校にいかせていただき中村先生の指導をみているうちに、やはりだらだらやっていたり、練習に身の入っていない子供には少し厳しい言葉も必要なのだと気がきました。高校生の時も中学生の指導は何回かやったことがあるのですが、やはり高校生として練習に参加するのと、指導者の立場として練習に参加するのでは、プレッシャーや責任感も全然違うので、改めて教師になることの大変さを学びました。

何回か練習に同わせてもらうちに生徒さんといふ打ちとけ、3年生の生徒さんが修学旅行のお土産を買ってきてくれたときは、なにか松本中学校の部活の一員として認められたような気がして、とてもうれしく感じました。そして松本中学校の練習に参加できてよかったなと思いました。

ボランティアを通して学んだことは沢山あります。いまどきの中学生とはどういうものなのかも分かり、どう接すればよいかも学べ、とても良い経験になりました。指導者としてバドミントンを指導しましたが、逆に私が生徒から学ぶことも沢山ありました。知らないこと、辛いこと、にも失敗をおそれず真正面から挑んでいくことの大切さを生徒さんたちから私は学びました。今回この学校ボランティアに参加し本当に良い経験ができて、今後教職をとっていくうえでとてもためになったと思います。

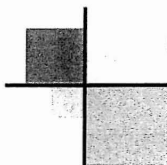
松本中学校でのボランティア活動

経済学部 経済学科 2年 下屋敷 アンナ

私は、今年の5月から松本中学校で社会科の授業補助のボランティアとして、週に1回朝8時から12時くらいまでお世話になりました。自分が指導者の立場として中学生の子どもたちに接することがはじめての経験だったので、はじめはとても緊張と不安でいっぱいでした。どうやって自分が授業中に動いていいかわからなかったし、なに

より子どもたちとの接し方が分からずなかなか話しかけたりすることもできないままでした。しかし、松本中学校の生徒さんたちは、朝、私が中学校に登校すると、元気に挨拶してくれるし、廊下を歩いていても、「先生おはようございます!」と声をかけてくれるので、そのことが私はとても嬉しくて、毎週ボランティアに行くことが





すごく楽しみになっていました。

しかし、生徒指導ということについて困ったこともありました。私は、授業補助の学生ボランティアとして行っていて、子供たちと仲良くなれることはすごく嬉しかったけど、ある子がその授業の先生の身体的なことだからかいい言葉を私に言ってきました。それはきっと、おもしろ半分で言ってきたのは分かっているのですが、そのときに私はどうやって対処したらいいか分かりませんでした。こういったことから、私は、ちゃんと生徒とどこまでの距離感をたもって接していくべきかをこの学生ボランティアを通して考えさせられるようになりました。

また、ボランティアを通して私はさらに教師になりたいと強く思うようになりました。大人になってから子どもたちと関われるような職業はあまりないし、子供を指導していくなかで、逆に私自身が教えられることもたくさんあって、本当に授業

補助のボランティアを経験できて良かったと思っています。さらに、松本中学校で経験できてとても良かったと思います。子どもたちは本当に挨拶がよく出来るし、みんな仲が良く、授業ではほとんどの学年やクラスにおいて積極的に発言をする姿が印象に残っています。松本中学校の生徒さんたちと関わっていくなかで、最初にボランティアをするとき思った私の気持ちは一変しました。今日ボランティアへ行ったら一体何を子供たちから学べるんだろうと思えるようになり、相変わらず緊張は少しはしますが、不安な気持ちはなくなりました。これから4年生になったら教育実習などもあるけど、その前にこの学生ボランティアを経験できて本当に良かったと思っています。松本中学校の先生方やちょうど教育実習で一緒になった方々本当にお世話になりどうもありがとうございました。

「ボランティアを通しての感想」

工学部 物質生命化学化 3年 其田 健太郎

自分は5月の下旬から数学のATとして栗田谷中学校に数回ボランティアに行きました。教職課程を履修し、教師を目指す途中である身で学校(現場)に直接触れ合い、子供達がいる場に生徒としてではなく先生側の立場で少しでも携わっていること事態が非常に良い体験となっています。

普段、大学で教職課程の勉強というと、「教育～学」や「～論」といった机上の学習が主であり、実際に子供と話をし、体や頭をつかって勉強を教える職業である教師の活動について学ぶのに、頭の中でのみ活動が盛んになり、根本的な「学習や生徒の指導をする」といった技術的な面を見落としがちになっていたのだと、この体験を経て感じ取りました。あれこれと考えてみても、思うようにうまくいかなくて、教師という職業の大変さが身をもって理解できたと言うことです。

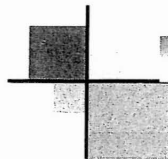
そもそも良く考えてみれば学校現場といっても本来自分達が通っていたはずの中学校や高校。普通に考えれば3年前(中学校は6～8年前ですが)までは、黒板に向かって座っていたのは自分

だったのに、今となってはあの頃どのような気持ちで授業を受けて、どんな気持ちで学校に来ていたかと言ったような事はすっかり忘れてしまっています。だから、子供と接するとき最初、どのようにして始めればいいのか分からないという事もあったし、ちゃんと学習指導を行なうという目標が達成出来るのか不安でもありました。今は、生徒に接すること自体に少しずつ慣れ始め、徐々に接することへの抵抗が薄れてきたと自負している位です。

さらに、この栗田谷中学のボランティアを通して、どのような教え方をすれば分かりやすく伝わるのか、生徒との望ましい人間関係とはなんなのか?といった机上では深く考える事ができなかった部分まで、こういった体験を通して考えを改めていく事が出来たと思います。

また、学校では「先生」として扱われて授業に取り組む事にも大きな意味があると思いました。

例えば、生徒は自分を先生だと思って接してくる。つまり、先生はある種「生徒の見本となるべ



き存在でないといけない」という事を考えると、当たり前ですが、当然半分おチャけた態度で接してはいけないし、学習指導という事で自分に自信を持って生徒と向かい合わなければならないと感じました。また、先生の教え方を生徒としてではなく、教える側の立場として聞いているだけでも、教え方の非常に上手い先生

達は良き手本であり、自分にとって色々な発見があって、すごく勉強になることばかりでした。

「多くの体験を現場で行なう事ができる」こういったボランティア活動は、教育実習という大きな場が控えている身としては、非常にありがたい経験であったと感じました。

「松本中学校と老松中学校でのボランティアをして」

英語英文学科 3年 鈴木 和佳

私は今年の4月から松本中学校と老松中学校でボランティアをしています。この2つの中学校での活動をそれぞれ振り返り、ここにご報告させて頂きたいと思います。私は今まで中学校に入り、生徒と関わった経験がありませんでした。そのため戸惑いも多く、後から後悔したり反省したりしていますが、その分生徒達から学ぶことも多く、ボランティアをして生徒と関わる喜びを感じています。机上で学校や教育について学んでいるだけでは味わうことのできない貴重な経験をしていると感じる毎日です。

松本中学校では、岩澤先生と河上先生の授業の時間として、4月から7月上旬まで毎週金曜日の13時10分から13時55分まで3年生の総合学習のサポートに入っていました。3ヶ月という短い期間ではありましたが、内容の濃い経験でした。初めて教室に入った時は、席について黒板を見ていた今までの生徒の立場とは違うことにまず戸惑い、生徒にどう声をかければ良いのか分からず、上手く声が出ませんでした。中学生は私が想像していた以上に元気で、私の声なんて簡単に聞き消されてしまいました。ボランティア4回目当分に先生方の声を聞いてみると、意外に大きな声を出していることに気がつくしました。

もちろん、大変だったのは声を出すことだけではありません。神奈川県について調べている生徒達にどう声をかけたらいいのか、どんなアドバイスをしたら良いのかとても悩みました。同時に、教科指導とは違い生徒と一緒にゼロから創造して学んでいくという総合学習の難しさを感じました。しかしながら、一緒にどんなことができるのか悩み、こんなことができると発見し、実行に移していく過程はなかなか教科指導では味わうことはできません。

悩んだことも多かった松本中学校でのボランティアでしたが、中学生の素直さに助けられ、発想の柔軟さに驚かされる毎日でした。教科指導では見ることのできない一面も体験することができ、このような機会を設けていただいたことに感謝しています。

老松中学校では「国際教室」という外国籍の生徒の取り出し授業の時間に、日本語やその他の教科を教えています。教職の他にとっている日本語教員養成課程も役立っていて、日々勉強の毎日です。

毎週水曜日の13時20分から14時10分に取り出し授業で中国人の女の子と一対一で、そして放課後にはその女の子とは別の中国人の生徒の他教科をフォローしています。

日本語教員養成課程で履修していた科目で、他国からきた子どもたちの教育の現状などを学びましたが、実際に接してみると様々な印象を受けました。日本語の出来ていない子は授業についていくことが難しいということは頭では分かっていたのですが、取り出し授業だけではフォローが難しく、またそこに割く教師の数や日本語指導方法・内容・質などの問題もあるのだなと思いました。国際化に伴い今後増えていくと予想される他国から来日した子どもたちへの教育の対応について考えさせられました。

また、実際に教えてみると、日本で生まれ育った私が思いもよらないような質問をしてくるので、母語だからと胡坐をかいてはいけなくて痛感させられました。さらに、他教科の指導では、分かりやすい易しい日本語に言葉を置き換えることに四苦八苦しています。

まだまだこれからですが、指導方法や子どもたちとの関わり方をどんどん吸収して学んでいきたいです。悩んで学んで反省して少しでも成長していけたらと思います。

神奈川大学教職課程指導室

電話：045-481-5661

FAX：045-413-4154

Email：educ@kanagawa-u.ac.jp